



## contents

[コラム]

「情報処理学会 会員の力を社会につなげる 研究グループ」の活動  
…寺田真敏

[解説]

「情報を『処理』する学習」への  
問い直しは成立するのか？  
…苅宿俊文

[解説]

ゲームを題材にした情報科学  
授業の事例報告  
…長瀧寛之

基  
般 Column「情報処理学会 会員の力を社会につなげる  
研究グループ」の活動

「情報処理学会 会員の力を社会につなげる 研究グループ」という名前を聞いて、この研究グループはどんな活動をするのだろうと気になった方もいることでしょう。

本研究グループは、2011年12月27日に公開された『情報処理学会 教育ビジョン 2011』に記載されている、「教育に携わる諸部門とのさまざまな形での協働の推進に努めます」を实践する場として、2012年2月に立ち上げられました。具体的には、「小中高の情報の授業に際して助言や補助を必要とする先生をお手伝いしたいと思ったことはありませんか？」などのニーズに応えられる環境や仕組みの試行を通して、協働の場を整備していこうというものです。簡単に言えば、問題解決のための協働の場を企画して実践するという、イベント企画型の研究グループです。ただ、これまでの活動実績は、教科情報を担当されている高校の先生へのヒアリング会合2回、このヒアリング会合から始まった企画イベント1回にとどまっています。ここでは、初企画イベントである“東大での『一般情報教育』を体験しよう～情報科学入門—Rubyを使って学ぶ”について触れたいと思います。

初企画イベント開催は、日ごろ困っていることを意見交換するヒアリング会合（2012年5月22日）の中で、「大学でのしっかりした情報の授業を聴きたい」という声がかっかけとなりました。この声に応えてくれたのが、東京大学の萩谷昌己先生、東京都高等学校情報教育研究会の小原格先生、情報処理教育委員会の皆さんです。そこからは、あれよあれよという間に、2012年7月30日～31日、東京大学駒場キャンパス情報教育棟での“東大での『一般情報教育』を体験しよう”を開催することが決まり、当日は、三重、大阪、愛知など遠方も含め、計38名の高校の先生が参加する、初回としては大成功といえる教育イベントとなりました。来年も、同様なイベントを企画したいと考えていますので、ご興味を持たれた方は、ご連絡ください。

日ごろ困っているちょっとした問題を、情報処理学会の皆さんの力をお借りして解決する活動は始まったばかりで、まだまだ手探り、試行錯誤を続けながら活動をしています。次に計画している企画は、高校の情報の先生を目指している学生さんを、高校の先生、大学の先生とともに皆で応援していこうというものです。

もしよろしければ、一緒に、新しい取り組みをしてみませんか？

寺田真敏 ((株) 日立製作所)